



ステップスギャラリー二年ぶり二度目の永野のり子個展である。私は永野の個展は横浜ギャラリーバリでも拝見しているので、永野の変化をより一層、感じることが出来る。

永野は今回、和紙に水彩、岩絵具による作品を8点、展示した。今回の永野の作品の特徴は、何を描いているのかではなく、何故描くのかにあった。

水面に写り込む風景が揺れている。そこに反射する景色とは実体なのか、目の錯覚が生み出す幻想なのか。水と違って見ると原景は失われ、画面と思うと水面は死ぬ。

そこには当然、風や空気、光りの動きが作用してくる。水蒸気による錯視も含まれることであろう。水面の光が雲に反射し、更に水面に墮ちることも考えられる要因となる。

これらは全て固定概念化される「事物」ではなく、刻々と変化し生成する「現象」である。哲学の世界の考察の際のエポケ＝一時停止は、自然には絶対に必要とされない。

永野はこのいま、ここの瞬間を捉えることに身を投じたのだ。画面に現れる斑に目を向けて欲しい。この立ち現れ、消滅する瞬間に、永野の作品の真意を見出すことが出来る。

